

雜報

鹿兒島縣警察 山口 政 男

年俸千貳百圓下賜

第十二師團軍醫部員陸軍二等軍醫 平野 林

大正七年徵兵事務執行中第六師團附兼勳被仰付

(三月十四日)

● 敘任及辭令

敘從六位 正七位勳六等 小金井拙夫

(二月二十八日)

免本職 佐世保海軍病院附海軍軍醫少監 村上敬二

海軍軍醫少監 村上敬二

海軍軍醫學校研究科學生被仰付 (三月一日)

步兵第四十三聯隊附陸軍三等軍醫 高岡清夫

免本職補野砲兵第十二聯隊附 (三月五日)

敘正七位 從七位 井戸泰

(三月十一日)

任鹿兒島縣技師 德島縣技師正七位 山口政男

敘高等官六等 德島縣警察正七位 山口政男

鹿兒島縣警察警二任入 鹿兒島縣技師 山口政男

年俸參拾圓下賜 (三月十一日)

年俸參拾圓下賜 (三月十一日)

大正七年徵兵事務執行中第六師團附兼勳被仰付

(三月十四日)

● 記念祝賀會

本年は岡山醫學專門學校の官立學校と成りしより既に三十年又岡山縣病院の縣立病院と稱するに至りたる以來四十の歳月を經過せるを記念する爲め四月十三日左の順序に由り祝賀會を開催することに決し舊岡山縣醫學學校以來の卒業生諸君及朝野の紳士を合せ二千五百餘名に對し祝賀會より案内狀を發送したり

祝賀會次第

一、祝賀式 大正七年四月十三日午前九時後樂園鶴鳴館に於て舉行

イ、式 辭

ロ、祝 辭

ハ、祝電披露

二、餘興及饗宴 同日午前十時三十分より同所に於て開催

イ、餘興開始 午前十時三十分

ロ、開 宴 正 午

ハ、閉 會 午後一時三十分

以上

●同窓會大會 岡山醫學專門學校は其前身岡山縣醫學學校時代よりの卒業生既に二千餘人の多きに至り全國各地にて公私重要な地位を占め一大勢力を形れるも從來之が大なる團結なかりしが今や岡山醫學專門學校は改築中にて追ては醫科大學に向上す可く一大發展の時機に在るを以て此際卒業生一致團結して母校の後援となるべく昨秋來山谷徳次郎君全國同窓生間を遊説して同窓會創立の必要を説き賛成を得たるを以て岡山市及東京在住の同校出身者五十餘名主唱者となり左の檄文を全國の同窓生に配布し同窓會設立の賛成を求め恰も四月十三日母校の記念祝賀會あるを機とし第一回大會を四月十三日午後及十四日全日開會の事とし十三日は會議を開きて會則講習會開設の件及醫學圖書館設立の件を附議し役員を選挙し同夜大正館にて懇親會を開き十四日午前發會式を行ひ午後は舊師を聘して講演會を開き又逝去せる舊教師及卒業生の追悼會を行ふ事等を議定せり尙ほ發會式及講演會には舊教授たりし清野勇、醫學博士中濱東一郎、京大總長醫學博士荒木寅三郎、九大教授醫學博士大西克知、醫學博士井上善次郎、醫學博士理學博士桂田富士郎氏列席講演する

事となり居れり

檄

謹て舊岡山縣醫學學校、舊第三高等中學校醫學部、舊第三高等學校醫學部及岡山醫學專門學校出身者に檄し、茲に我徒同人の一大團結を組織せんがため、汎く四方に向つて其趣旨を告ぐ。

抑我岡山醫學專門學校は、其前身たりし舊第三高等學校醫學部、舊第三高等中學校醫學部及舊岡山縣醫學學校の當時より、既に學制完成し、且設備整頓し、加之教授亦其人を得て、駁々乎として學風日に興り、校運月に旺に、一たび校門を出て幾多の俊才は、到處に赫然一頭地を抜き岡山醫學學校の名聲は、實に天下に最たるものあり。又以て我徒恒久の誇りと爲す所なりき。然るに、近年他の官公立醫學專門學校が、設備を完整し、良師を招聘し以て其面目を一新せるに該り、我母校は、却て弊實を醸成し、屢紛擾を激發し、良師相踵きて去り、學風漸弛み、校運將に傾かんこと、我徒居常母校を念ふ者をして、轉た憂慮に堪へざらしめたり。近者新校長及教授諸氏銳意改善に努力せらるるに雖、積弊の盤結せる今俄に之を振興するに、復た容易の業に非らず。苟も義故ある我徒、豈袖手傍觀して可ならんや。

今や本邦に於ける醫育統一の氣運漸く熟し、官立醫學專門學校の大學と爲る將に近きにあらんこと。此時に當り我母校は他に先んじて最卓絶せる醫科大學として天下に立つに非ずんば、恐くは昔日の盛名全く地に墜ち、今後の隆運得て認む可からざるに至らん。是實に我徒が忍ばんと欲して忍ぶ能はざる所なり。

蓋母校の將來は、獨り當路の手に委するを許さざるのみならず、彼を思ひ之を思へば、不安の念一日も胸臆を去る能はず。是に於て、我徒が母校の爲に結束を鞏固にする所以は必や其後援に待つもの益々多きが爲なり。

然り而して我徒が一旦校門を辭するや身跡參商、東去西往、其交情年々共に疎隔し昔日一窓に螢雪の苦を同くせし者も亦門外咫尺山河萬里の憾なくんばあらず。若夫れ卒業年次の相異なる者に至りては、空く同窓の名のみ存して未曾で一面の識あらざる者、亦尠しと爲さず。是に於て平我徒は舊交を溫め、新盟を訂するの機を得んことを欲するや甚切なり。是亦我徒の結束を絶叫せざる可からざる所以なり。

茲に我徒は我同窓の一大團體を組織し、一は以て母校の後援と爲り、一は以て同窓の交盟を敦くせんことす。願ふに、我校を出でし儕輩、既に二千餘人。安そ斯界の一大勢力たらざらんや。幸に能く結束を固くせば素より我校の事復た憂ふるに足らざるなり。即茲に檄を傳へ、敢て同窓諸君の熱誠に懇ふること爾り。幾くは鑑考警省あらんことを。敬白。

主唱者 一同

● 人事彙報

○志摩次郎君 は今般岡山醫學專門學校小兒科講師を囑託せられ本月十五日着任せられたり

○好本節君 本誌前號に於て小兒科學研究の爲め歐米に

留學を命せられたる同君の出發を五月上旬と記載せしも右は誤聞にて愈々本月二十九日神戸より乗船出發せられたり

○筒井八百珠君 は日本醫學會に出席の爲め本月下旬出發上京せられたり

○齋藤精一郎君 同上

○加藤誠治君 同上

○寛 繁君 同上

○藤田秀太郎君 同上

○田中文男君 同上

○安藤畫一君 同上

○西川義英君 同上

○大森大亮君 同上

○廣瀬耕一君 同上

○田部 浩君 同上

○浦野多門治君 同上

○古川浩君 は昨年十一月中旬ローマ、リンドンに到着し同地の醫科大學に通學せられ當分滞在せらるゝ豫定にして其寓所は左の如し

P. o. Box 235,

Loma Linda, Cal.

U. S. A.

- 芳賀正則君 は豫て當市菅病院に於て診療に従事し居られしが今般同院を辭し當市西田町に於て開業せられたり
- 中村楸樹君 は豫て岡山縣病院内科に勤務し居られしが今同當地管内科病院主任醫として就職せられたり
- 宇都宮博章君 は今回鐘ヶ淵紡績岡山工場醫局を辭し本縣邑久郡裳掛村に於て開業せられたり
- 友澤辰治郎君 は今般兵庫縣宍粟郡山崎町に於て開業せられたり
- 柴山文太君 は豫て帝國生命保險會社主任醫として勤務し居られしが今般八千代生命保險會社の招聘に應じ診査醫長として就職せられたり
- 山口近義君 は今回京都市上京區御池間ノ町淺田醫院に勤務せられたり

- 三橋長一君 は今般大阪市東區末吉橋通四丁目心齋橋病院に勤務せられたり
- 中井茂樹君 は今般松山市赤十字社支部病院に勤務せられたり
- 金谷卓爾君 は豫て臺灣臺北醫院に勤務し居られしが今般大連滿鐵醫院外科に轉勤せられたり
- 松岡賢一君 は本月一日退營直ちに松山市赤十字社支部病院に勤務せられたり
- 寺松隆太郎君(舊姓蜂谷) は今回京都醫科大學病院島菌内科に勤務せられたり
- 小林建太郎君 は豫て本縣上道郡高島村に於て開業し居られしが今般同郡光政村に移轉開業せられたり
- 山下勇逸君 は豫て滯京中の處今般前開業地愛媛縣越智郡岩城村に於て診療に従事せられたり
- 山路順之助君 は豫て九州醫科大學三宅外科教室に勤務し居られしが今般辭職伊豫國宇和島町に於て開業せられたり

○重松靄君は豫て愛媛縣今治町に於て診療に従事し居られしが今般松山市二番町に移轉開業せられたり

○志村實五君 豫て岡山縣病院に勤務し居られし同君は今般 Mindanao, P. I. に渡航せらるゝ爲め辭職せられたり

○大森爲二君 昨年陸軍を辭せられたる同君は今般本縣兒島郡宇野村に於て開業せられたり

森文雄君逝く 君は大正三年十一月岡山醫學專門學校を卒業し大正四年一月より姫路市立北條病院に勤務し居ること一箇年、大正六年五月支那青島に於て開業せられしも病氣の爲め歸郷靜養に力められしも其效なく去月十八日遂に遠逝せられたりと洵に哀悼の情に堪へざるなり

●岡山醫學九州同窓會 來四月佐賀市に於て九州醫學會開會を機とし同月二十七日午後五時より同市清澗亭に於て岡山醫學同窓會を開會する由詳細は廣告欄にあり

岡山縣
院 内科集談會記事

(二川記)

第十九回集談會 三月十一日(月曜日)

當夜新歸朝の廣瀬耕一君を本會員に迎へて彼地に於ける君が深刻なる見聞談を聽き、裨益する處少なからず、益々本會の向上發展を企圖する處ありき。

第一席 飢餓期に於ける尿分析竝に一二の

臨牀的及實驗的研究(抄讀)

岩藤 政太君

演者は日新醫學第七年第五號に發表せられたる鈴木、蓮井兩氏の業績に關し、特に蓮井氏より贈られたる別刷に就き之が内容を概説せり。

第二席 死後解剖に付したる縦隔竇腫瘍の

一實驗例に就いて

新 宗一君

(原稿未着)

第三席 ジヨンスホフキンスホスピタルに

就いて

廣 瀬 耕 一 君

君は君が滯米中、親しく研鑽に従事せるジヨンスホフキンスホスピタルに就いて得たる見聞の細大を披瀝し、君が精細なる見解を以て之が長短を并論し、寫真或は印刷物を供覽して、當該病院に於ける制度の一般を概説せり。

今左に之が概要を摘録せん。

一、内科に用ふるクリニカルシャツ及病院の入院

規則

二、醫員の採用法及階級

三、レージエントシステムの利點

四、メチイカルバソロチイカルコンフェレンスに就いて

五、病室の模様及看護婦の模様

六、X放線科と内科との關係

七、患者の取扱法の勝れたる點

八、研究室の狀態

九、圖書室の狀態

十、食堂の狀況

十一、施療に就いて

十二、寫真供覽

以上 (二川抄)